

---

# 黒くて紅い妖少女

砂鉄黒餅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黒くて紅い妖幼女

### 【Nコード】

N3869H

### 【作者名】

砂鉄黒餅

### 【あらすじ】

リアルを生きる尤と輝。ある日別世界に引きずり込まれて・・・  
猫の魔物と旅をする?!

## 【いつもの日常】

「でさ〜」

「マジ?! 本当なの?!」

「うんうん。そんで〜」

今日も五月蠅く女子の声がまだ明るい午後の教室に響く。よくも話のネタが尽きないものだとは半ば呆れ、感心する。

「よう! 尤<sup>ユウ</sup>! 帰ろうぜ!」

「そうだね。午前授業だったし、いつまでも学校にいても何にもならないし。帰ろうかな」

「おう! じゃあ校門でな〜!」

元気に走っていく中々の色男。僕の親友の輝<sup>テル</sup>。

「輝君バイバイ!」

「おう! じゃあな!」

輝が出て行った後、俺は荷物をまとめていたところ。

「あ、あのっ!?!?!」

ん?と教室中の視線が入り口に向けられる。(さほど人数はいないけど)

「尤さん・・・居ますかっ?!」

ほいほい。と入り口に向かう。

「よっ! 色男!」

「下級生の子じゃん! かーわいいー!」

ムサイい男どもの喚声を聞きながら廊下に出る。

「あの・・・これっ!?!」

顔を真っ赤にし、女の子が手紙を出す。

とうとう俺にもこの時が――

「輝先輩に渡してもらえませんか？」

チツ、またかよ。色男とつるんでると必ず起こる悲劇。

親友経路。どうどうと渡してこいっつーの。

「悪いけど、自分で渡しなよ。アイツはそっいう方が好みだと思うよ?」

ああ、まったく俺は優しい人間。アイツの好みもすっかり教えてあげて、背中を押す勇気をあげてしまってお人よし。(輝にはかなわんが)

「あ、ありがとうございます!!自分でやってみます!!」  
行ってらっしゃい。と俺はひらひら掌を振る。

今月で何人目だ?まったく、色男のお守りは辛いなの。  
そして向こうから輝がやってくる。

「尤〜!まだかよ〜!!」

あ〜あ、あの子何処にいるんだろうな。と思いつつ玄関にしぶしぶ向かう俺。

「へいへい。お待ちどーさん」

「本当に待った!!帰りにアイス奢れ!!」

「いやじゃ」

下らないやりとりをし、結局アイスを食べながら二人で歩いて帰る。

「剣道の試合どうだった？」

俺が輝に問う。ちなみに輝は文武の武しかできないような奴。文は平均と行って良いくらい。

「俺が負けるとでも?」

ふん。と仰け反りながら威張って言うアホが俺の隣に一人。

「おっ」

クソ真面目に答える俺。

「なっ、失礼な!無敗の王者と呼ばれたこの俺が負け」

「わーった。わーった。おめつとーさん」

下らないこの世界がどうにかなるなんて夢にも思わなかった。ましてや別の世界があるなんて。

「なあ尤。なんか耳鳴りしないか？」

「そっついえば、何か引っ張られているような感じもしねえ？」

「尤もか？」

「輝もか？まあ振り返ったら次元の扉なんてファンタジーじゃあるめえしなあ？」

クルリと俺の言葉を聞き取った輝が後ろを振り向く。

「な？ねえだろ？」

「いや、後ろ。」

「うん？」

振り向かなければ良かった。

俺が後ろを向いた瞬間。ぐいんと引っ張られるような感じがして。

【引きずり込まれた】

## 【出逢い】

体中を引き伸ばされるような。引つ張られるような。そんな感覚。

「て……るっ……!! だいじょ……ぶか?!」

一応声は出せるらしい。

「ゆうっ……どこ行くんた? ……俺……たち……」

そして、光が見えた。

ぼさっ。ぼてっ。

何とも無様な音を立てて落ちる二人の青年。

「っだっ!!!」

俺の上に、事もあろうに輝が落ちてきた。

「ぐえっ……」

声をあげる輝。俺のほつが確実に痛い。

ふと顔を上げると——森?

「なあ尤。」

「どうしたん」

ガサササッ! ……言いかけてると草の茂みから何か出てきた。

『匿ってくりやれ!!!』

緊迫した感じの幼女。猫耳つき。

ワオ。こっつてマジで何処?

『追われてるのじゃ!!! 匿ってくりやれ!!!』

「お、おう」

輝と俺の上着で猫耳幼女を隠す。

バタバタバタッ! すぐに足音がして変なヤクザっぽいおっちゃん方が出てきた。

「おう! 餓鬼共! ここに猫魔がこなかったかあ?!」

「ん? 来て無いぜ?」

輝が受け答える。

「と、というか、お前らどこの者だ？見ねえ面と格好だが。サーカスか？」

「みたいなもんです」

俺が答える。

「じゃあおっさん達もなんか頑張れよ！」

あ、馬鹿。こんなヤの字っぱい人にそんな事言っちゃ駄目っしょ。

「おう！頑張るぜ！因みに俺はまだ27だ！」

そう言っておっさん達はどっかにいってしまった。

「もう出てもいいぞ」

俺が上着を取る。

『すまないの。匿ってくれて助かった』

「お、おう」

「てか何で追われてたの？」

『うむ。わっちが少しばかり異形だからじゃ』

うん。可愛すぎて異形って事で。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3869h/>

---

黒くて紅い妖幼女

2010年10月25日02時20分発行